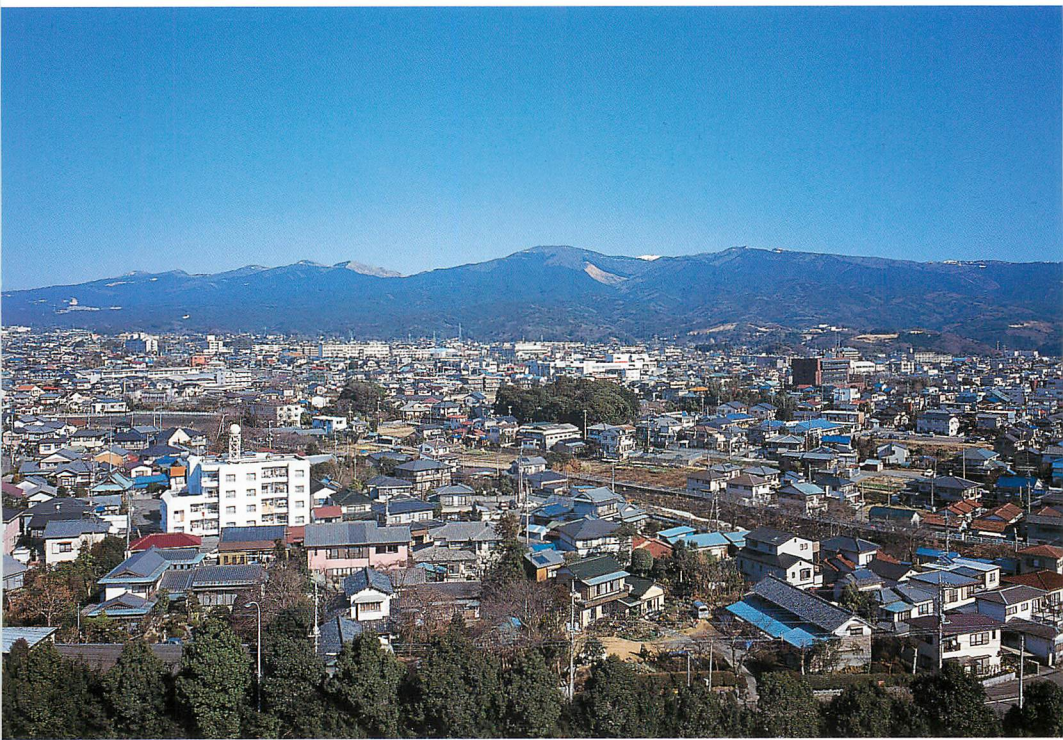


# 裾野市史

第九卷  
通史編  
II

題字  
前裾野市長  
市  
川  
武



1 発展をとげる裾野市市街地



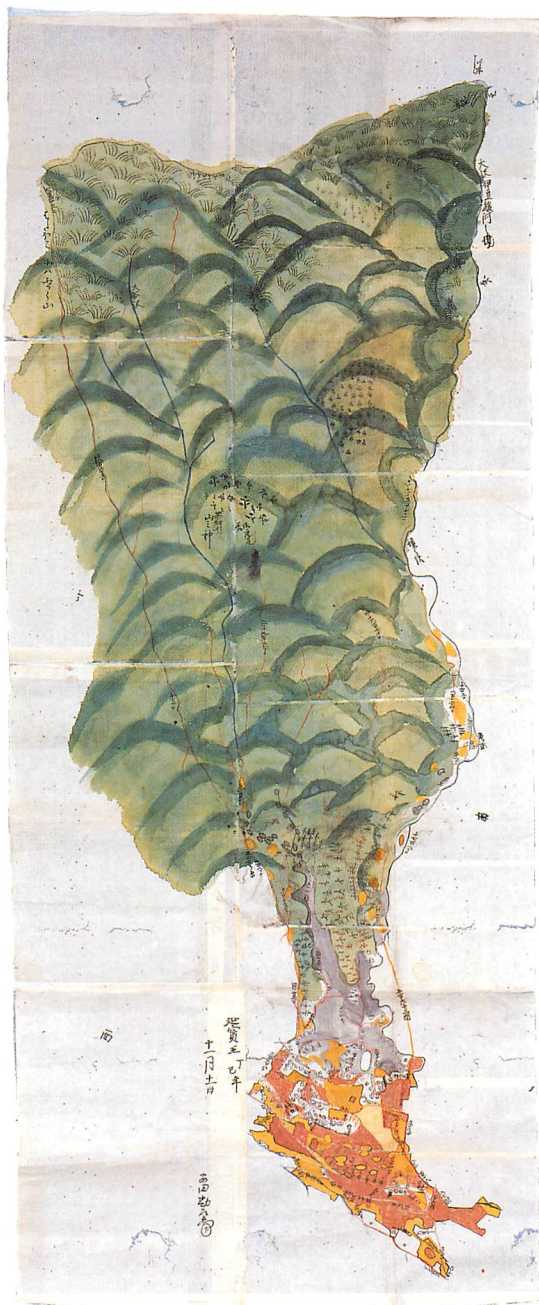
## 2 自然環境に恵まれる裾野市



3 岩波村絵図(年不詳)



4 公文名村絵図(年不詳)



5 茶畑村絵図(1677年)

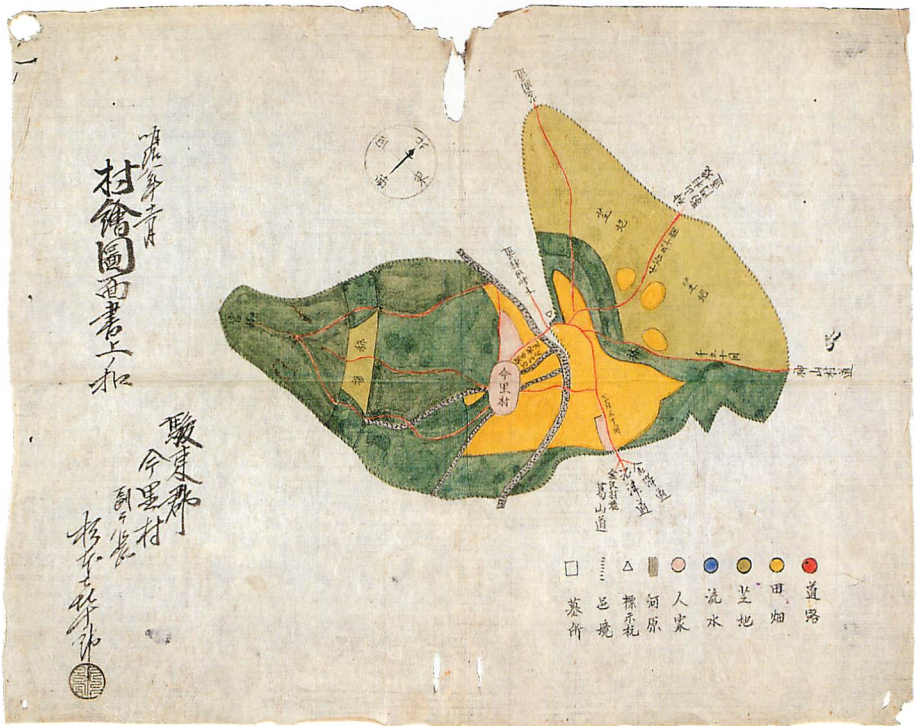


6 佐野村絵図(1839年)

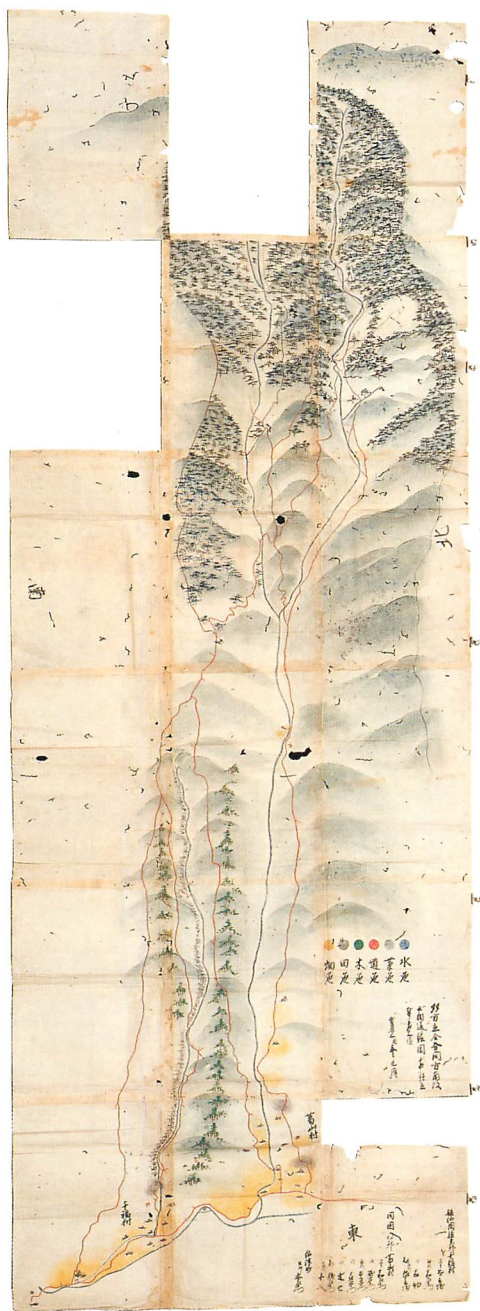




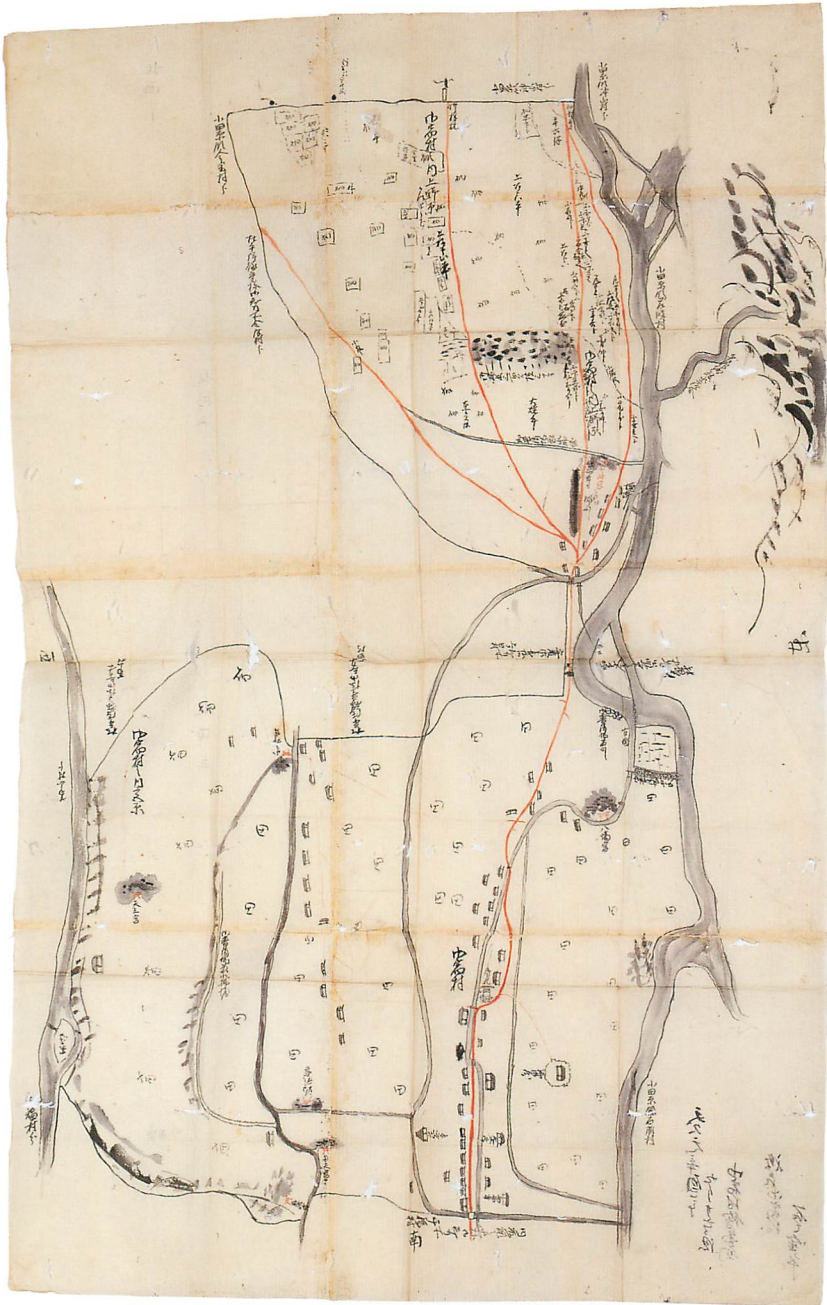
7 富沢村絵図(1847年)



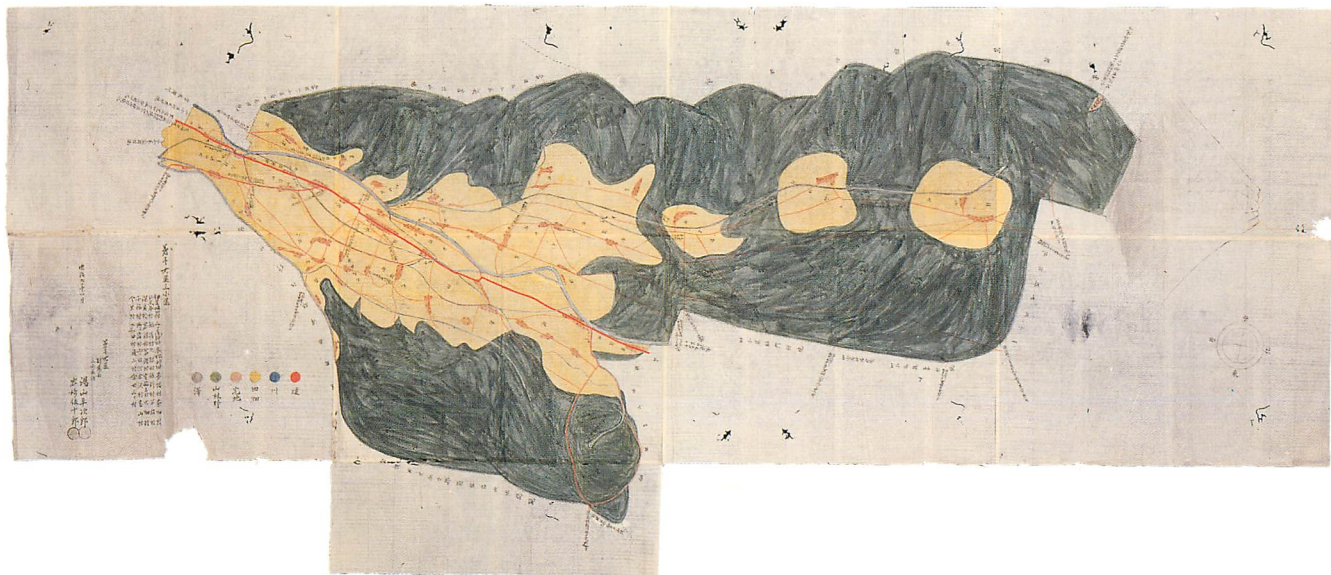
8 今里村繪図(1875年)



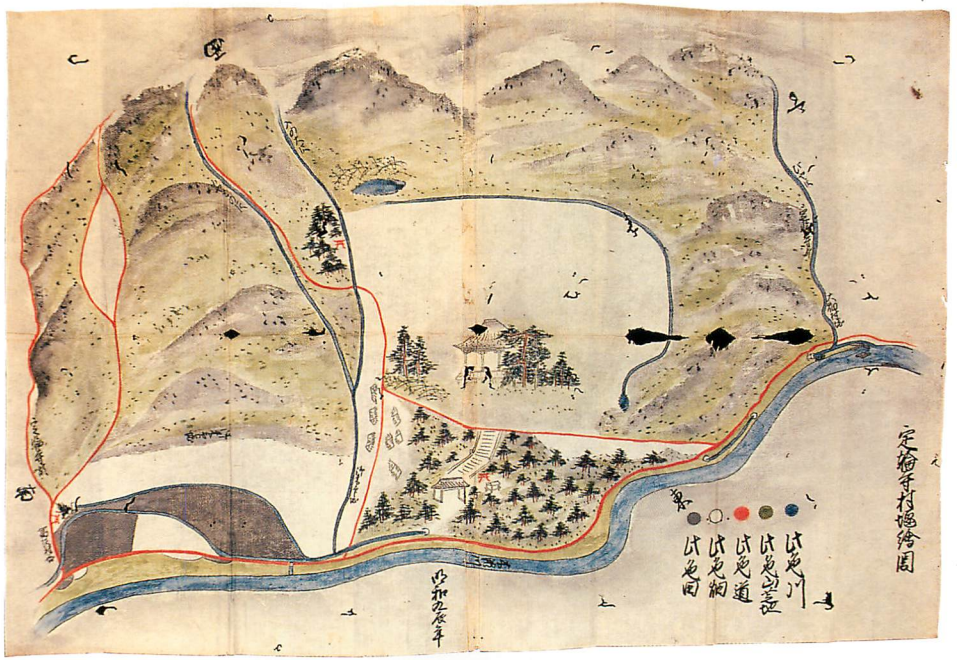
9 葛山・千福村絵図(1753年)



10 御宿村絵図(1861年)



11 裾野市全域絵図(1876年)



12 定輪寺村繪圖(1772年)

## 発刊のことば

裾野市長 大橋 俊二



このたび「通史編Ⅱ」が発刊の運びとなりました。本巻をもって長い間の念願でありました『裾野市史』が全巻完成しましたことは大変嬉しいことで、市民の皆様と共に喜び合いたいと思います。

本書は、昨年度刊行しました「通史編Ⅰ」とは別の視点から叙述しました。「通史編Ⅰ」では資料編などをもとに考古から近・現代までを概観できるよう叙述したのに対し、本書はまず最初に、これまでの裾野の生活史を「山」・「水」・「子ども」の三大テーマとして掲げて取りあげました。地域の人びとが、郷土を取り巻く山々や水とどのように関わってきたのか、またどのような恩恵にあずかってきたのか、そして郷土に暮らす子どもたちを児童文苑や駿東文園などの描写から取りあげ、特に戦後の日常生活・あそび・地域の行事などを通して、その変貌の様子を記述しました。

次に、地域の歴史を受け継いだ人びと、またその舞台となった村落について取りあげ、時代を追って書き表し、その多様性と深みを浮き彫りにいたしました。

また、別冊付録として裾野の歴史年表を作成しました。この年表は、「通史編Ⅰ」を基に作られ、各項目は「通史編Ⅰ」の掲載ページとリンク（連環）し、使いやすくなっています。

この「通史編Ⅱ」をもって、昭和六十三年度から本格的に始まった『裾野市史』の編さんは完結いたします。これまで市史は本書を含め資料編七巻、通史編二巻、資料叢書四冊、調査報告書八冊、市史研究十三号、市史だより二十五号を発刊いたしました。このように刊行できましたことは市民の皆様への温かいご支援と関係各位のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

社会生活環境が大きく移り変わる中で、二十一世紀を迎え、豊かで活力に満ちた明日の裾野市を創造していくためには、私たちの祖先の営みを正しく理解し、未来への指針を探ることが必要であります。市史編さんは、こうしたまちづくりの課題にこたえるものとして、また貴重な古文書等により、郷土の歴史を広い視野から明らかにし、遺物等広く調査収集してまいりましたことは、史実を長く後世に伝えるという大きな意義があると考えています。

二十一世紀の最初の年に、市制施行三十周年という節目を迎えた今日の裾野市がこのようにあるのも先人の方々のお陰であると思っています。

これまで刊行してまいりました市史等が市内外の方々により有効に活用され、裾野市が益々発展す



ることを祈願するものであります。

結びにあたり、多年にわたり膨大な史・資料等を丹念に考察し、編集、執筆にあたってこられました有光友學専門委員代表をはじめ各専門・調査委員の方々のご労苦に対しまして深く感謝申しあげます。

平成十三年三月

## 「通史編Ⅱ」刊行にあたって

裾野市史編さん専門委員代表 有光友學

一九八七(昭和六十二年)九月に始まった『裾野市史』編さん事業も、本卷(「通史編Ⅱ」)の刊行をもって終了します。この間、資料編として、第一卷「考古」、第二卷「古代・中世」、第三卷「近世」、第四・五卷「近現代Ⅰ・Ⅱ」、第六卷「深良用水」、第七卷「民俗」、さらに、「通史編Ⅰ」として昨年度第八卷を上梓し、合わせて八冊をほぼ当初の計画通り刊行してきました。そして、ここに「通史編Ⅱ」を世に送り出すことによって、十三年有余の編さん事業も閉じられることとなります。

私どもは、当初、「通史編」を、原始・古代から中世・近世までと、近・現代との上下二冊に分けて刊行する予定でありました。しかしながら、限られた地域における歴史を機械的に時代を追って叙述するだけでは、地域の特徴を描きだすことは無理ではないかと考え、「通史編Ⅰ」では、原始から近・現代に至るまで全時代を一書にして概観できるように、文字通り通史として刊行しました。それに対して、本卷では、「裾野の生活史」「人物に見る裾野の歴史」「裾野村落誌」の三部構成で、地域

に展開した生活や、その歴史を受け継いだ人間、またその舞台となった村落について、テーマ別に書き表わし、その多様性と深みを浮き彫りにしようと思いました。

富士山や愛鷹山、箱根山に抱かれたこの地域の人びとの生活は、山との関係を抜きにして語ることは出来ません。また、地域を貫流する黄瀬川やその支流、また先人の多大な労苦によって開削された深良隧道と用水は、この地域に豊かな水を供給してきました。それによって人々は多くの恩恵を受け、様々な果実を生みだし、種々の体験を重ねてきました。さらに、戦前から戦後、現在に至るまで延々として続けられ編まれてきた子供たちの文集「児童文苑」「駿東文園」は、この地域の教育や文化の高さを示し、貴重な財産となっています。いつの時代にあっても鋭い感性と生き活きとした活力を持つ子供たちの姿をそこからうかがうことができます。こうした裾野の自然環境と生活・文化を歴史的に明らかにしたのが第一編「裾野の生活史」であります。

第二編「人物に見る裾野の歴史」は、通史では時代の流れの中で部分的にしか触れられなかった先人について、それらの人々が裾野地域の歩みの中でどのような役割を果たしてきたのかを簡潔にまとめたものであります。史料の制約と紙数の関係、偏らない人選に配慮したことなどから限られた人物になりましたが、「通史編Ⅰ」と合わせてお読みいただくと、各時代の歴史の動きにさらに奥行きが増すものと思います。

第三編「裾野村落誌」は、現在の市域を構成する二四の大字のすべてにわたって、その地理・歴

史・現代の社会と生活について個別的に書き表したものであります。これも通史では地名、すなわち点としてしか示せえなかったそれぞれの地域の実態と特色を明らかにしたものであり、全体を通じて今日の裾野市の成り立ちと全体像が示されているものと思えます。

以上の構成と内容は、この種の自治体史としては新しい試みともいえます。「通史編Ⅰ」と合わせることによって、この裾野市域において始めて人間の暮らしが営まれた時代から、変貌の激しい現代に至るまでの長い道程が深みを持って明らかにされたものと確信しています。どうか本書を通じて地域の歴史に思いを馳せていただきたいと思います。

最後になりましたが、こころよく数多くの貴重な史・資料や情報をお寄せくださいました市民の皆様や関係各位、そして、財政事情の厳しい中にもかかわらず、長期間物心両面にわたって支えてくださった行政当局に対して厚く感謝申し上げます。

二〇〇一(平成十三年)三月

## 凡 例

- 一 本巻は、『裾野市史』通史編Ⅱとして、テーマ別に三編に分けて叙述した。
- 一 本文の記述は、原則的に常用漢字・現代仮名遣いを使用した。ただし、専門的な用語については、必ずしもこの原則によらなかった。
- 一 人名・地名・難読あるいは誤読の恐れのある語句は、各章の初出にできる限りふりがなを付した。
- 一 本文中の人名の敬称は、すべて省略した。
- 一 年号は西暦を用い、和暦を( )で示した。
- 一 一八七二(明治五)年十二月二日以前は陰暦を用い、それ以降は陽暦を使用した。
- 一 本巻で使用した史・資料が『裾野市史』資料編に収録されているときは、原則として、『市史』三―四五四号のように表記した。『静岡県史』の通史編の場合は『県史』通4―八七六頁のように巻数のあとに頁数を記し、資料編の場合は、『県史』資7―五三三のように巻数のあとに資料番号を示した。ただし、近現代の資料編・通史編の場合は、ともに巻数のあとに頁数を記した。

### 例

凡 一 引用史・資料は、本文中での引用は「 」を付し、長文の場合は本文から二字下げで示した。引用はで

例 きるだけ原本の体裁に従うことを原則とした。また、文中には適宜句読点を付した。

凡 一 本文の叙述には多くの研究成果を援用したが、本巻の性質上、典拠を省略した場合が多い。なお、とくに必要

があつて示す場合は、本文中に（ ）で記した。

一 写真・図表は、編ごとにそれぞれ写真1-1、図表2-1のように一連番号を付し、巻末に掲載写真一覧、掲載図表一覧を示した。

一 執筆分担は、巻末に示した。

一 本書には、プライバシーにかかわる表現や現在からみると差別的な用語が用いられている場合がある。もとより、こうした不当な差別を容認するものではなく、それらの根絶の立場からその史実を認識する意味でそのまま掲載した。

一 第一編裾野の生活史の索引は巻末に付した。

# 通史編II 総目次

口 絵

発行のことば ..... 裾野市長 大橋 俊二 一

「通史編II」刊行にあたって ..... 裾野市史編さん専門委員代表 有光 友學 四

凡 例 ..... 七

通史編II 総目次

口 絵 一覧

第一編 裾野の生活史 ..... 四

第一章 山と生活 ..... 三

第一節 環境と生活 ..... 三

1 裾野をとりまく山々 ..... 三

活動する富士山／大きな水がめ箱根山／静かな山愛鷹山

2 山と里を結ぶ道 ..... 五

峠と沢の道

3 信仰の山…………… 六〇

奈良時代の富士山伝承／平安時代の富士山伝承／富士浅間神社／富士上人末代と埋納経／  
中世の山の信仰

第二節 山と民俗…………… 七三

1 山の生活環境…………… 七三

山に囲まれた生活環境／富士山と愛鷹山を擁する須山／愛鷹山麓の富沢／箱根山と茶畑／  
奥山というところ

2 山の生業…………… 七九

山での生業と山仕事／アラクオコシから開墾へ／アラクの作物と里の畑の作物／山の畑の  
耕作技術／炭焼き／炭と炭焼き窯の特徴／サキヤマとキンマヒキ／竹と竹伐り／竹製品／  
野芝とミツマタ・タモ

3 山と暮らし…………… 八〇

水源の確保／燃料の確保／茅刈り／草刈りと落ち葉かき／山での山菜採取と狩猟

第三節 近世の山と暮らし…………… 八五

1 轆轤師・木地挽の活動…………… 八五

轆轤師の活動／轆轤師の活動範囲／轆轤師の特権／近世の木地挽

2 裾野の村々と山野…………… 八六



3	村人の生活と山野／深良村の山／東山／西山／須山村の山々―富士山と愛鷹山／下和田村・今里村の山／須釜入・つかね沢・本洞入／葛山村の山々／大野原	二〇三
3	村人の生活基盤としての山	二〇三
4	刈敷・馬草・茅の供給地としての山野／薪取りと炭焼き―稼ぎの場としての山／茶畑村の炭焼き／炭焼きの出願／炭山の売買手続き／炭山代金の使途	二〇二
4	小田原藩の御林	二〇二
4	領主の山林領有／小田原藩の御林支配／元文二年の御用木伐採事件と御林の規定／御林と裾野の村々	二〇一
5	愛鷹牧と裾野の村々	二〇一
5	裾野の村々と愛鷹牧／捕馬と払馬／捕馬と払馬の動向／捕馬人足への村人の動員／捕馬人足を負担した村々	二〇〇
第四節 近代の山と暮らし		
1	山林原野の官民有区分と須山一―三戸共有	一三五
1	裾野市域の入会林野／愛鷹山の官林指定／土族払下げ山林の買戻し／官民有区分／須山一―三戸共有の形成	一三五
2	愛鷹山の民有払下げ	一三三
2	民有引戻しと払下げ／愛鷹山民有引戻し運動のはじまり／沼津町ほか十か町村組合と愛鷹山払下げ／大野原官有地の利用	一三三
3	入会利用と開墾	一三七

入会利用をめぐる規約／明治前期の入会地開墾／入会地開墾をめぐる村落内対抗

4 部落有林野統一と茶畑二一戸共有……………一四

泉村部落有林野の統一／泉村「騒擾」事件／和解、その後

5 入会規定と深良財産区……………一〇

大字深良共有山林／深良公有林野の規定整備／深良財産区

第五節 東富士演習場と裾野地域の人々……………一五

1 富士裾野演習場の誕生……………一五

暮らしのなかの演習場／富士裾野演習場の設定／演習と地域住民／演習場使用協定と特惠  
契約／裾野地域への「報酬」／廃弾払い下げ

2 第一次世界大戦後の社会変動と演習場……………一六

住民の生産活動／「報酬金」見直し交渉／演習場と地域住民関係のかたち

3 昭和恐慌から戦時体制のなかで……………一六

村の自己主張／一九三四年協定の意味／「報酬金」と地域社会／戦時期の演習場

4 占領と演習場 日本陸軍からアメリカ軍へ……………一七

敗戦直後の演習場／アメリカ軍による接収／協力と自己主張のはざままで

5 生存権の思想……………一八

つづく演習場使用／生存権の主張／生存権侵害の実際／再建連盟と「生存権」のゆくえ／演  
習場と裾野地域

第二章 裾野の水……………二〇三

第一節 市域の水系と環境……………二〇三

1 自然水系……………二〇三

地形と水系／黄瀬川／佐野川／金沢川／平山川／大柄沢／小柄沢／深良川／勝負川／大洞川（仮称）／梅ノ木沢川／久保田川／泉川／入田川／境川

2 人工水系……………二二七

自然河川と用水／堰と水門／少ない溜め池／大口堰／深良用水／新川／豊後堰／カロウト堰／佐野堰／大堰／富沢穴堰／泉川からの用水／境川からの用水

第二節 近世の用水管理……………三二六

1 近世裾野の用水系……………三二六

箱根・愛鷹山麓の水／黄瀬川用水

2 用水施設……………三三〇

用水施設の構造／用水施設の管理

3 深良用水をめぐる水論……………三三九

深良村と井組／一色村と富沢村の水論／大堰下の水論

第三節 近代と水利……………二四七

1 裾野市域の水利と深良用水……………二四七

裾野の水利環境／深良用水の意味

2 逆川訴訟……………二五三

事件の発生／告訴／横浜地裁判決／東京控訴院上告棄却判決／大審院への上告／大審院の判決(明治三十年)／名古屋控訴院判決／明治三十一年逆川事件大審院判決／富田和解調停

3 井組から水利組合へ……………二六六

近代の井組／水利土功協議会／水利組合の発足

4 河川法と深良用水……………二七五

河川法の成立／河川法の適用

5 深良用水と産業……………二七七

水力発電の開始

第四節 水と生活……………二八〇

1 カワバタの利用……………二八〇

生活用水の確保／カワバタの利用と井戸／麦塚の水の苦勞、茶畑の水の苦勞／伝染病の流行／水車／馬洗い場

2 湧水と水道……………二八六

山の水源の利用／須山の水の苦勞と水源の確保／水路・分水の仕組みと管理／タンク／簡易水道／市の水道

3	水の信仰と子どもの遊び	二九三
	水神／雨乞い／子どもの遊び	
第三章 子どもの風景		
第一節 「土」の綴方と『児童文苑』		
1	駿東の「土」からの叫び	二九七
	富原義徳の『土の綴り方』／小野三郎の述懐	
2	大正自由教育と青年教師	三〇一
	駿東の自然と綴方／習俗と綴方／生活への視点	
3	生活綴方への視点	三〇四
	杉山正賢の生活綴方／生活綴方の終焉	
第二節 民俗のなかの子ども		
1	子どもの成長	三〇〇
	誕生／丈夫に育つようへの願いを込めて／病氣と子ども／子どもの神様	
2	年中行事と子ども	三〇八
	正月の子ども行事／サイトヤキ・ドンドヤキ／二月の行事／天神講の子どもたち／お盆と盆がま／十五夜と子ども	

	3	子どもの時間……………	三七
		働く子ども／子どもの遊び／祭り子ども	
		第三節 『児童文苑』に描かれた戦前の子ども……………	三〇
	1	子どもの日常……………	三〇
		『児童文苑』と裾野の子ども／自然のなかであそぶ／留守番と宿題／ぼくの仕事	
	2	日曜日と農繁期……………	三七
		日曜日の仕事と幼稚園／農繁休暇と家族	
	3	身近な者との別離と児童雑誌……………	三四
		悲しい思い出／待ち遠しい『少年倶楽部』	
	4	満州事変と子ども……………	三五
		満州事変と慰問文／少年団の活動	
	5	日中戦争と子ども……………	三五
		日中戦争の開始と銃後の護り／丈夫な身体で勤労奉仕／わたしの覚悟	
		第四節 戦後の子どもの暮らしと感受性―『駿東文園』から……………	三六
	1	視点……………	三六
		時代の感情	
	2	〈戦後〉の子どもたち……………	三五

空白からの出発／死と再会／平和の身体感覚／死と病／働く子ども／アメリカの影

3 高度成長のなかの子どもたち(二)——一九六〇年前後……………三六七

暮らしの感受性／農村の機械化／電気洗濯機とテレビ

4 高度成長のなかの子どもたち(二)——一九七〇年前後……………三七五

うまいものを食べたーい／環境破壊のなかの感受性

5 子どもたちの現在……………三六一

〈勉強〉という合言葉／サブ・カルチャーと子ども／スキマの自由

## 第二編 人物に見る裾野の歴史……………三六一

飯尾宗祇(いのおそうぎ)／今川義元(いまがわよしもと)／岩崎佐十郎(いわさきさじゅうろう)／

大庭源之丞(おおばげんのじょう)／大庭唯吉(おおばただきち)／大森一族(おおもりいちぞく)／

柏木官里(かしわぎかんり)／柏木甚右衛門(かしわぎじんえもん)／葛山氏堯(かざらやまうじた

か)／葛山氏広(かざらやまうじひろ)／葛山氏元(かざらやまうじもと)／葛山景倫(かざらやまか

げとも)／葛山信貞(かざらやまのぶさだ)／勝田三平(かつたさんぺい)／かねほり甚左衛門(かね

ほりじんざえもん)／閑谷法師(かんくほっし)／小長谷正綱(こながやまさつな)／小林聿(こば

やしはじめ)／榊研三(さかきけんぞう)／鈴木朝蔵(すずきあさぞう)／鈴木忠治郎(すずきちゅう

じろう)／芹沢多根(せりざわおおね)／大高重成(だいこうしげなり)／武田信玄(たけだしんげ

ん)／友野与右衛門(とものよえもん)／野村彦太夫(のむらひこだゆう)／服部大誦(はっとりだい  
 ほ)／万里集九(ばんりしゅうく)／北条氏五代(ほうじょうじごだい)／松井庄左衛門(まついしよ  
 うざえもん)／御宿友綱(みしゅくともつな)／源頼朝(みなもとのもりとも)／三好支意(みよしげ  
 んい)／柳澤文溪(やなぎさわぶんけい)／山科言継(やましなときつぐ)／唯念(ゆいねん)／湯山  
 いゑ(ゆやまいえ)／湯山吟右衛門(ゆやまぎんえもん)／湯山宮内左衛門(初代)(ゆやまくないざ  
 えもん)／湯山範右衛門(ゆやまはんえもん)／湯山半七郎(ゆやまはんしちろう)／湯山安右衛門  
 (ゆやまやすえもん)／湯山柳雄(ゆやまやなお)／横田村詮(よこたむらあきら)／横山健吾(よこや  
 まけんご)／横山文左衛門(よこやまぶんざえもん)／横山良吉(よこやまりょうきち)／冷泉為和  
 (れいぜいためかず)／渡辺勘兵衛(わたなべかんべえ)／渡辺虎杖(わたなべこじょう)／渡辺隼雄  
 (わたなべはやお)

### 第三編 裾野村落誌

#### 裾野村落誌編さんの方針

目的／単位／構成

#### 第一章 岩波

##### 第一節 地理的概要

四九一

四九一

四九一

四九七



御殿場境の村／位置／地形と土地利用／集落  
第二節 歴史概要……………四九三

1 近世……………四九三

中世の岩波／近世の村高と支配／戸数と寺社

2 近現代……………四九四

明治以降の行政／深良と岩波／人口／学校／岩波駅

第三節 地域社会と生活……………四九五

農村から住宅地へ／区と内部組織／共有財産／駒形八幡神社／薬師堂／不動堂／岩神橋の  
石塔類／岩波風穴

第二章 深良……………五〇一

第一節 地理的概要……………五〇一

深良用水の村／位置と概況／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………五〇五

1 中世以前……………五〇五

縄文遺物が出土した城ヶ尾遺跡／一線に並ぶ遺跡群／住居址が出土した上原遺跡／大森氏  
に関わる深良陣山・堀ノ内／大森氏の支配と大森郷

2 近世……………五〇六

支配領主の変遷／検地と村高／戸数・人口および寺社／用水の開削／事件

3 近現代……………五二

行政単位の変遷／戸数と人口の変遷／学校／産業／深良発電所

第三節 地域社会と生活……………五三

農業の変化／天田上と天田下／常設委員と区／最寄／深良財産区／地区組織と区組織／神社と寺院／吉田さん／中駿大念仏講と中駿大題目講／堂と神仏

第三章 久根……………五三

第一節 地理的概要……………五三

箱根山とシンボリ／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………五四

1 近世……………五四

中世までの久根／近世の支配と村高／寺院／村方騒動

2 近現代……………五五

近代の行政単位／戸数と人口／産業／学校

第三節 地域社会と生活……………五〇

生業の変化／内部区分と組織／共有財産／神社と寺院／御厨横道の石造物

第四章 公文名 ..... 五五

第一節 地理的概要 ..... 五五

公文名という地名／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要 ..... 五五七

1 中世以前 ..... 五五七

日向遺跡と丸山II遺跡／丸山I遺跡／中世

2 近世 ..... 五五八

支配の変遷／検地／戸数・人口・寺社

3 近現代 ..... 五五〇

行政単位の変遷／戸数と人口／生業／学校／関東大震災

第三節 地域社会と生活 ..... 五五四

生業の変遷／最寄と行政区／自治組織／入会山／鹿嶋神社／光明寺／観音堂／そのほかの  
神社／公文名堤／ハダイ／箱根竹／庚申堂と五輪塔群

第五章 稲荷 ..... 五六一

第一節 地理的概要 ..... 五六一

住宅地の稲荷／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………五三

1 中世以前……………五三

稲荷遺跡／中世

2 近世……………五六

支配の変遷／検地／稲荷大明神

3 近現代……………五六

近代の行政単位／戸数と人口／田畑半々の村

第三節 地域社会と生活……………五六

生業の変化／内部区分／稲荷神社／順礼供養塔

第六章 茶畑……………五九

第一節 地理的概要……………五九

茶右衛門・畑右衛門・村右衛門／位置／地形と土地利用／集落／施設

第二節 歴史概要……………五七

1 中世以前……………五七

縄文中期の道場山遺跡と天神山・屯屋敷遺跡／「塚」と呼ばれた中丸・三ツ石古墳／『駿河記』に記された十三塚／中世の茶畑と柏木家

2 近世……………五七四

支配の変遷／検地／戸数と人口／村の姿／深良用水／富士山宝永の噴火／安政の地震／村の事件

3 近現代……………五八〇

行政の変遷／近代の戸数・人口と生業／学校／天理町／泉村「騒擾」事件／関東大震災／海軍機墜落事件

第三節 地域社会と生活……………五六

生業の変化／行政区と最寄／区の役職／共有財産／浅間神社／山の神／吉田さん／金毘羅神社／サイノカミ／耕月寺／願生寺／不動堂／大日堂／竹材業／ダタラ／羅漢塚の石造物

第七章 平松……………五九三

第一節 地理的概要……………五九三

裾野の顔平松／位置／地形と土地利用／施設

第二節 歴史概要……………五九四

1 中世以前……………五九四

中世

2 近世……………五九五

開発人作衛門／検地／近世の戸数と社寺／山論

3 近現代……………五九六

行政の変遷／佐野原神社／戸数・人口と生業／学校／佐野駅から裾野駅へ

第三節 地域社会と生活……………六〇〇

生業の変化／行政区と組織／八幡宮／十三塚／地藏堂／深良用水／佐野原神社周辺に見られる石造物

第八章 麦塚……………六〇五

第一節 地理的概要……………六〇五

麦塚という地名／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………六〇六

1 中世以前……………六〇六

国境の村

2 近世……………六〇七

支配の変遷／村高と村の姿

3 近現代……………六一〇

行政の変遷／戸数と人口／学校

第三節 地域社会と生活……………六一三

生業の変化／村内区分／自治組織／七軒百姓／神社／寺院／東光寺に多い石造物／堰と共有／雨乞い

第九章 石脇……………三二

第二節 地理的概要……………三二

大石のある村／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………三三

1 近世以前……………三三

五竜の滝上遺跡／近世の支配と村高／絵図にみる石脇村

2 近現代……………三五

行政の変遷／戸数と人口／生業／学校

第三節 地域社会と生活……………三九

農業の変化と諸職／村内区分と区の役職／共有財産／神社と堂／そのほかの祭りと講／大水とまつられる神仏／堂山周辺に多い石造物

第一〇章 佐野……………三九

第一節 地理的概要……………三九

裾野の中心地／位置／集落

第二節 歴史概要……………六四二

1 中世以前……………六四二

弥生文化／北方文化の南限／宿駅佐野／佐野と佐野郷／支配の有為転変

2 近世……………六四三

支配と村高／村明細帳から

3 近現代……………六四四

明治以降の行政／経済的發展と変化／五竜の滝／学校

第三節 地域社会と生活……………六四九

農村から市街地へ／佐野と二本松／佐野一と佐野二／佐野一大区／宿通り／佐野原／二本松／二本松大区／大字・大区・区／氏神／寺院／吉田神社／水天宮／秋葉神社と秋葉講／佐野堰と中郷／蓮光寺の順礼供養塔

第一章 一ツ屋……………六六三

第二節 地理的概要……………六六三

二軒で拓いた村／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………六六四

1 近世……………六六四

中世以前／近世の村の概況／村の教育者菅沼家



2	近現代	六五
	行政の変遷／戸数と人口／農業／学校	
第三節	地域社会と生活	六七
	生業の変化／内部区分と区の役職／神社と祭り／庵跡に集められた石造物	
第一二章	伊豆島田	六七
第一節	地理的概要	六七
	市内最南端の地区／位置／地形と土地利用／集落	
第二節	歴史概要	六七
1	近世	七五
	墨書土器が出土した伊豆島田中曾根遺跡／近世の支配と村高／伊豆島田の十分一役所／堰 原大堰と三俣堰	
2	近現代	七九
	行政単位の変遷／戸数と人口／生業／学校	
第三節	地域社会と生活	八一
	農家戸数の変化／村内区分と区の役職／共有財産／神社と寺院／三峯神社の祭りと講／街 道にまつられた石造物	

第一三章 水窪 ..... 六九一

第一節 地理的概要 ..... 六九一

街道の中継地／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要 ..... 六九二

1 中世以前 ..... 六九二

水窪高田遺跡／渡辺蔵人と長教寺

2 近世 ..... 六九三

支配と村高／戸数と寺社／継ぎ場と十分一役所／下郷としての水窪村／野田の穴堰と水論

3 近現代 ..... 六九六

行政単位の変遷／戸数と人口／生業／学校

第三節 地域社会と生活 ..... 六九九

農業の変化／内部区分と区の役割／共有財産／神社と寺院／おもな祭りと行事／馬継ぎ場の馬頭観音

第一四章 富沢 ..... 七〇七

第一節 地理的概要 ..... 七〇七

穴堰と水田集落／位置／地形と土地利用／集落の形と景観

第二節 歴史概要 ..... 七二〇

1 中世以前 ..... 七二〇

愛鷹山裾の平坦地／大岡荘／天神山

2 近世 ..... 七二三

支配の変遷／村高と村の姿／穴堰

3 近現代 ..... 七二七

行政区分の変遷／戸数と人口／生業／学校／小作争議

第三節 地域社会と生活 ..... 七三〇

村内区分／農家数の変化／自治組織／ミッカセギ／共有地／橋と道／寺社と祭り／講／馬  
とのくらしを伝える石造物

第一章 須山 ..... 七三九

第一節 地理的概要 ..... 七三九

高地の集落／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要 ..... 七三三

1 中世以前 ..... 七三三

市内最高地点の縄文遺跡／滝ノ沢遺跡と大野原遺跡／中世の須山

2 近世……………七三

支配と村高／須山村の概要／富士山登山道須山口／十里木村の概要

3 近現代……………七七

行政区の変遷／戸数と人口／須山の立地条件と生業／学校／米騒動と須山

第三節 地域社会と生活……………七六

生業の変化／内部区分と区の役職／共有地と管理運営方法／水源地の確保と水道の敷設／街道と富士山登山歩道／須山浅間神社とその祭り／そのほかの神社と寺／おもな行事と祭り／頼朝伝説と餅無し正月

第一六章 下和田……………七六

第一節 地理的概要……………七六

七軒百姓の村／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………七〇

1 中世以前……………七〇

一本杉下遺跡／中世の下和田

2 近世……………七〇

支配と村高／下和田村の概要／富士山頂の美女

3 近現代……………七四

行政区の変遷／戸数と人口／下和田の立地条件と生業／学校／明治二十五年の大火  
第三節 地域社会と生活……………七六〇

生業の変化／内部区分と自治会組織／共有地と共同財産／水源地の確保／神社と寺院／飯  
盛山の不動／おもな行事と祭り／山神社にまつられる龍爪社

第一章 今里……………七六九

第一節 地理的概要……………七六九

今里という村名／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………七九二

1 中世以前……………七九二

古銭が出土した今里中村遺跡

2 近世……………七九三

近世の今里村

3 近代……………七九六

行政区の変遷／戸数と人口／生業の変遷／学校

第三節 地域社会と生活……………八〇〇

農業の変化／内部区分と区の役職／共有地／水源と開田／寺社とその祭り／岩船地蔵の由  
来と祭り／そのほかの行事／岩船地蔵周辺の石造物

第一八章 葛山 ..... 八〇九

第一節 地理的概要 ..... 八〇九

谷間の村葛山／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要 ..... 八二一

1 中世以前 ..... 八二一

散在する縄文遺跡／本格的開発の開始／葛山氏の登場／氏堯・氏広・氏元／葛山城跡／葛山居館跡

2 近世 ..... 八二七

支配の変遷／村高と村の姿

3 近現代 ..... 八三八

行政の変遷／戸数と人口／生業の変遷／入会地の官民有区分と払下げ／共有地と葛山共有財産管理委員会／嶽南小学校／嶽南小学校の移転をめぐる対立／農村青年共働学校

第三節 地域社会と生活 ..... 八三六

村内区分／自治組織／神社と寺院／嶽の雷さん／繁栄を願う家移り粥の行事／最寄の入口にある道祖神と庚申塔

第一九章 金沢 ..... 八三七

第一節 地理的概要 ..... 八三七

金沢堤と東名高速道路／位置／地形と土地利用／丘陵部の谷に拓かれた小集落

第二節 歴史概要

1 中世以前

縄文遺跡が豊富な上川遺跡

2 近世

近世の金沢村

3 近現代

行政区の変遷／戸数と人口／農業と竹行李製造／学校

第三節 地域社会と生活

農業の変化／村内区分と区の役職／共有地／金沢堤と灌漑用水／浅間神社と神明宮／そのほかの神社と寺・堂／庚申塚と石造物

第二〇章 上ヶ田

第一節 地理的概要

水田が広がる上ヶ田／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要

1 中世

..... 八五五

八三九

八三九

八四〇

八四一

八四六

八五三

八五三

八五五

八五五

金沢手城山跡／葛山氏一族の支配

2 近世……………八五六

支配と村高／上ヶ田村の概要と村方騒動

3 近現代……………八五六

行政区の変遷／戸数と人口／農産物と竹行李製造／学校

第三節 地域社会と生活……………八六〇

生業の変化／村内区分と区の役職／共有地／神明宮と式年遷宮／そのほかの祭り／水源と

水道／馬頭観音坂にあった石造物

第二章 御宿……………八六七

第一節 地理的概要……………八六七

街道の「宿」御宿／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要……………八六九

1 中世以前……………八六九

考古遺物の発見／地名の由来／古代・中世の御宿／御宿友綱

2 近世……………八七一

支配と村高／寺院と氏神／御宿に暮らす人々／歴代の名主と湯山三家／湯山家の日記に見る御宿の生活／湯山家の女性たち／飢饉・台風／小田原藩領と沼津代官領の村々の入会争



論

3 近現代 ..... 八七九

字／行政区の変遷／戸数と人口／農業主体から商農兼業化へ／御厨銀行の開業／嶽南小学校／富岡第一小学校と富岡中学校

第三節 地域社会と生活 ..... 八八三

農家戸数の変化／村内区分／自治組織／神社と寺／さまざまな講／清水の俱利伽羅不動

第二二章 千福 ..... 八九三

第一節 地理的概要 ..... 八九三

自立した三最寄／位置／地形と土地利用／集落

第二節 歴史概要 ..... 八九五

1 中世以前 ..... 八九五

千福ニュータウンで縄文遺跡発見／馬場添遺跡／千福城跡／千福城の利用と千福の支配

2 近世 ..... 八九九

支配の変遷／村高と村の姿／愛鷹牧の牧士

3 近現代 ..... 九〇一

行政区分の変遷／戸数と人口／生業の変遷／入会地の官民有区分と払下げ／嶽南小学校／嶽南小学校の移転と分村問題

第三節 地域社会と生活……………九〇六

村内区分と区の役員／十二神社と普明寺／区でまつる神仏／多様な形態の道祖神

第二三章 大畑……………九三

第一節 地理的概要……………九三

中世を残す小字／位置／地形と土地利用／集落の姿

第二節 歴史概要……………九二五

1 中世以前……………九二五

入れ墨のある土偶／大畑城跡／大畑城と集落／『閑谷集』に見る大畑／大幡寺・大円寺・伴東寺

2 近世……………九二九

支配の変遷／村高と村の姿／干ばつと竹の実結

3 近現代……………九三二

行政区分の変遷／戸数と人口／生業／行餘舎の分校と嶽南小学校／嶽南小学校の移転をめぐる対立／生活を支えた大畑橋

第三節 地域社会と生活……………九三七

内部区分と区の役職／共有地／教育会館・美化センター／神社と堂／祭りと講／願かけの石造物

第二四章 桃園…………… 九三

第一節 地理的概要…………… 九三

古刹定輪寺の村／位置／地形と土地利用／集落の姿

第二節 歴史概要…………… 九三

1 中世以前…………… 九三

尾畑遺跡／定輪寺／定輪寺と宗祇

2 近世…………… 九五

支配の変遷／村高と村の姿

3 近現代…………… 九六

行政区分の変遷／戸数と人口／生業／嶽南小学校・温情舎・西小学校／嶽南小学校の移転  
をめぐる対立／鈴木農場

第三節 地域社会と生活…………… 九四

内部区分と区の役職／桃園神社と御嶽神社／宗祇にゆかりの石造物

あとがき…………… 裾野市史編さん室長 杉山幸彦…………… 九七

裾野市史編さん関係者…………… 九九

掲載図表一覧	……………	九五九
掲載写真・所蔵者一覧	……………	九六八
口絵写真・所蔵者一覧	……………	九六九
年号一覧	……………	九七三
第一編 裾野の生活史 索引	……………	九七六
裾野市大字境図		
別冊付録 裾野の歴史年表		

口絵一覧

- 一 発展をとげる裾野市市街地
- 二 自然環境に恵まれる裾野市
- 三 岩波村絵図(年不詳)
- 四 公文名村絵図(年不詳)
- 五 茶畑村絵図(一六七七年)
- 六 佐野村絵図(一八三九年)
- 七 富沢村絵図(一八四七年)
- 八 今里村絵図(一八七五年)
- 九 葛山・千福村絵図(一七五三年)
- 一〇 御宿村絵図(一八六一年)
- 一一 裾野市全域絵図(一八七六年)
- 一二 定輪寺村絵図(一七七二年)

口絵写真 一〇一一 撮影 堤 勝雄